

(様式1) 実践事例

学校名	福島市立水保小学校	校長名	長澤 芳明		
住所	福島市土船字原野町19-1	児童生徒数	85	学級数	7
TEL	024-593-1097	ホームページアドレス	http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page_id=453		

少人数教育のよさを生かしたきめ細かな支援の工夫 ～算数科における言語活動の充実をめざして～

1 少人数指導の計画等

(1) めざす子どもの姿

- 本校は、少人数という実態を生かしながら、「算数科における言語活動の充実」を通して、自ら進んで表現する児童の育成をめざしている。

(2) 指導方針及び具体的な方策

- 算数科における言語活動（操作、図、式、用語等を用いて考えたり説明したり伝え合ったりする活動）を計画的に授業に位置付け、児童の思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- 効果的な学び合いによる思考と吟味を図ることができるよう、教師がコーディネートの工夫を行う。
- 授業研究において明らかになった課題を、ネクストプランによる授業実践に生かし、さらに充実した授業づくりを行う。
- 全国学力・学習状況調査及びNRT学力診断検査の結果の分析、課題の明確化、具体的な取組と学力向上策の策定を行う。

2 授業実践の概要

(1) 「円の面積」〈第6学年 11名〉

きめ細かな支援や学び合いを取り入れることにより、円を含む複合図形の面積の求め方への理解を深める授業

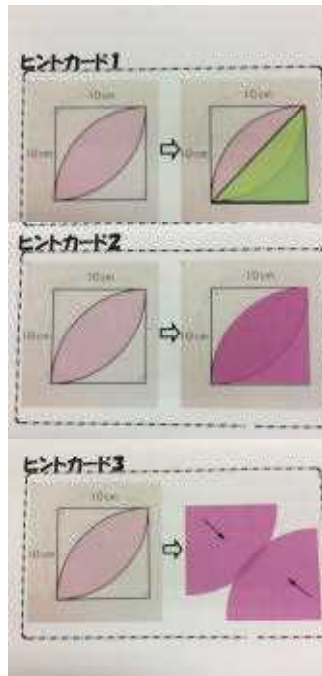
【手だて①】

戸惑っている児童にその子の考えに寄り添ったヒントカードを与えたり、図形の組み合わせ方を操作して見せたりすることで、解決できるようにする。

既習の図形をもとにした複合図形ではあるが、児童にとっては初めて出会う形のため、解決に戸惑うことが予想された。そこで、既習の図形がもとになっているということが分かるヒントカードを準備したり、パソコンを用いて既習の図形を動かしながら重なり具合を説明するヒントを準備したりした。

授業では、児童の解決状況を把握し、その児童がどんな支援を必要としているかを見取り、それぞれの児童の考えに合ったヒントカードを与えるようにした。

また、ヒントカードを用いることで、計算式のみで答えを求めている児童は、自分の考えをより分かりやすく友達に伝えることができた。



ヒントカードを用いての自力解決



パソコンを用いて、扇形が2つ重なっていることを扇形を動かして説明している様子

【手だて②】

ペアでの伝え合いで自分の考えとは違う解決方法を理解させたり、全体の学び合いで紹介させるようにしたりすることで、思考の共有化を図ることができるようにする。

最初のペアは、自分の解決方法とは違う考えに触れさせるため、自力解決での見取りをもとに教師が意図的に違う考えの児童同士でペアを組ませた。そしてその後、児童が自由に交流する中で、友達同士で考えを伝え合わせ、いろいろな解き方があることに気付かせるようにした。

さらに、全体での学び合いでは、ペアで交流した相手の考えを紹介させるようにし、自分の解決方法とは違う方法を自分のものとし、理解を深めさせるようにした。



ペアで伝え合っている様子



自由に交流している様子



全体での学び合いの様子

(2) 「買い物をしよう」〈つばめ学級(知的障がい) 5名〉

(2年生1名, 3年生1名, 5年生1名, 6年生2名)

個に応じたきめ細かな支援と互いがかかわり合う活動を取り入れながら、買い物に合った計算の仕方を理解することができる授業

【手だて①】

おつかいを分担するという場面設定により、互いがかかわり合う協働的な学びの場を通して、自分の考えを発表したり互いの発表に関心をもったりしながら、言語活動の充実を図るようにする。

特別支援学級では算数科の場合、個別指導が中心となりがちだが、「カレーライス材料を準備しよう」という大きなねらいのもと、「代金を求めるには、どんな計算をすればよいか。」という課題を設けることで、一緒に解決していく楽しさや達成感を味わうとともに、全員が自分の考えを友達にしっかりと伝えたり、互いの発表をしっかりと聞き合ったりすることができた。

【手だて②】

個に応じた学習課題を設定し、絵図や線分図などを使ったワークシートを活用しながら意欲的に課題解決に取り組むことができるようにする。

材料を分担して代金を求める。

2年生	3年生	5年生	6年生(2名)
カレー1個 ジュース1本 式 $258 + 78$	ジャガイモ5個 式 67×5	たまねぎ3個 式 58×3	100g158円のもも肉500gか 100g257円のロース肉300g のどちらか安い方を買う 158を5回たして790円 式 $257 \times 3 = 771$ 円 安いのはロース肉 代金771円
代金 336円	代金 335円	代金 174円	

位取りの図にお金のシールを貼る操作

絵図をもとにした立式

絵図とテープ図をもとにした立式

絵図と数直線図をもとにした立式

(主な支援)

児童の実態に応じた課題と、興味や関心を引く広告チラシ(自作)の提示、式を導き出すための絵図や線分図を使ったワークシートの活用などの支援により、全員が立式し答えを求めることができた。

3 実践の成果と課題

- 児童が今、何を必要としているのかなど、きめ細かに児童の思考を見取り、一人一人の思考に沿った手だてを講じた。そのことにより、児童の自力解決を促すことができた。
- 意図的に異なる解決方法同士でペアを組んで伝え合ったり、ペアで伝え合った相手の考えを説明させたりするなど、学び合いの方法や形態を工夫した。そのことにより、思考を共有したり考えを深めたりする学び合いがより効果的に働くということを確認することができた。
- 異学年の児童で構成される特別支援学級においても、場面設定により協働的に楽しく課題解決に向かったり、きめ細かな支援によって互いに発表し合ったりする活動を、効果的に授業に位置付けることができた。
- 少人数のよさを生かして児童の実態に沿った授業を目指しているが、少人数であるがゆえに話し合いが深まりにくいという一面もある。算数科における言語活動の一層の充実を図る上で、より効果的な教師のコーディネート在り方を探っていく必要がある。